

1

1 a

複 雑

b

危 険

c

造 語

2

三 項 関 係

3

A

自

B

飛

C

や み

4

I

知 識 〴 〵 〶 〷 〸 〺 〻 〼 〽 〾 〿

II

信 頼 性

・

正 確 性

(完答)

(順不同)

5

(記述題)

6

I ウ

II

イ

III

オ

IV

ア

V

エ

(完答)

7

母 語 話 者

8

赤 ち ゃ ん が 注

2

1 a

精 査

b

痛 感

c

結 構

2

A

パ

B

家

C

貝

D

念

3

う ち の 部 に

4

(記述題)

5

I

エ

II

ウ

III

ア

6

集 団 生 活

7

(記述題)

8

ウ

(完答)

9

「 学 級

10

イ

11

四 階 の 廊 下

1

5

以 前 に 正 確 な 情 報 を 提 供 し た 人 物
か ら 、 選 択 的 に 新 し い 語 彙 を 学 ぶ

(同意可)

2

4

捕 球 す る 時 に 目 を 瞑 っ て い な い 稲
見 が キ ャ ャ ャ ャ に 向 い て い る と
い う こ と 。

(同意可)

7

高 校 生 に も な っ て 自 分 の 実 力 も 認 識 せ ず に 「 試 合
に 出 て 勝 っ て ス カ ウ ト に 目 撃 さ れ て プ ロ に な り た
い 」 と 夢 の よ う な こ と を 言 っ て い る と い う こ と 。

(同意可)

〔配点〕

1 1 1 2 1 2

5 3 4 7

各2点×13＝26点
各6点×3＝18点
各4点×14＝56点

- 1 ① a 「複雑」の「複」・b 「危険」の「險」ともに部首を間違えないよう気を配って書く必要がある。c 「造語」は新たに作り出したことば。
- 2 冒頭の段落に「赤ちゃんは：最初は『赤ちゃんと大人』や『赤ちゃんとおもちゃ』といった二項関係を通じて世界と関わります」とあること、一つめの①を含む一文が「：赤ちゃんは『自己―他者―対象』の①を通して世界と関わるようになります」となっていることから、社会性が発達する過程において「二項」が「三項」に変化したのではないかという予測が立てられる。「こうした発達は：」からはじまる段落で「赤ちゃんは三項関係を通じて他者とのコミュニケーションを深め：」と述べられている。
- 3 A 「自発的」は自分から進んでするさま。B 「飛躍的」は事物の状況が急激に向上するさま。C 「やみくも」は見通しもなく物事を行うこと。

- 4 I 本文中に専門用語や抽象的な表現が出てきた場合は、「それはどういうもの（こと）か」と考えながら読み進める必要がある。――線②の次の段落に「他者から学ぶ社会的学習は、知識や技術を効率的に習得する方法といえます」とある。
- II 「子ども」が情報源を選ぶ基準を聞かれているので、「子どもは、情報源となる：」からはじまる段落から「前節では：」の直前の行までさがす。「子どもは、情報源となる他者の信頼性を評価し：」「子どもが情報提供者の正確さを基準に：」「子どもは、相手がくれる情報の正確性を吟味したうえで：」「子どもが身近な情報提供者を信頼しながらも、情報の正確性を見極めて：」「子どもは、他者からの情報をただ受け取るだけではなく、情報提供者の信頼性や背景を考慮しながら：」という、具体例をまとめている表現に注目して考えよう。
- 5 ③を含む一文が「これにより、3～5歳の子どもは③ことがわかります」となっているので、ここより前で紹介されている「3～5歳の子どもに対して行った、情報提供者の正確さを基準に語彙を学習する実験」の結果を答えればよいとわかる。「選択的」という指定語句を用いるようにという条件を見落とさないようにしよう。
- 6 まず、【II】と【III】の間で段落が分かれていることから、話題もここで変わっていると考える。次に選択肢に注目するとア・エ・オが外見的な要素について述べている文なので、これらが【III】【IV】【V】のいずれかに、イ・ウが【I】【II】のどちらかにはいることがわかる。ウの冒頭の「さらに」やオの冒頭の「また」は、子どもが最適な情報源をどのように選んでいるかについての並列関係をあらわしていることに注意したい。
- 7 線④が問いかけになっているので、それに対する答えを通読時につかみたい。「結論からいうと：信頼できる他者を選び、優先的に学習します」「また、赤ちゃんの学習には：どの集団に属しているかも影響します」の並列関係のうちの二つめである。
- 8 「段落の冒頭に戻す」という条件を見落とさないようにしよう。まず、「共同注意」について述べられている本文の前半に戻すという見当をつける。「語彙学習にも」とあることから、本文のそこまでは「共同注意」の別の役割について述べられており、戻す段落では「語彙学習」について述べられているはずである。

- 1 ② a 「精査」はくわしく調べること。b 「痛感」は心に強く感じること。c 「結構」はかなりの程度であるさま。「構」を「講」と書かないようにしよう。
- 2 A 「パツとしない」は見えがしない、状態があまりよくないこと。B 「一言」は、見識のある意見。C 「貝になる」は二枚貝のイメージから沈黙する意のたとえとして使われる表現である。D 「念を押す」は間違いがないよう、相手に十分確かめること。
- 3 「私」が見ていた録画への「これで各々の弱点とか癖をセイサしたりするの？」という、「録画の目的」についてのめぐみからの質問に対して、「私」がどのように答えているかに注目する。
- 4 ここよりも前に書かれているめぐみの発言から考えるのだが、――線②の次の行に「そして、牧谷は稲見にキャッチャーの打診をしたようだ」とあることから、「稲見がキャッチャーに向いている」という内容は不可欠だろう。また、顧問である牧谷が稲見に打診するには、それ相応の根拠も必要となってくるはずである。めぐみの発言の中から根拠の部分もうまくまとめたい。
- 5 答えが確実に決まるところから考えよう。【III】は直後に「私も自分がこの場で発言していることにびっくりした」とあるので、アになるとわかる。【I】はこれからキャッチャーの話し合いに臨む冬子の表情であるが、キャッチャーがなかなか決まらない現状に困っているため、イやウのような表情にはならないはずである。よって、ここはエになる。【II】はキャッチャーの希望者がおらず水銀みたいな空気の中、「じゃあ、俺が：」と手を上げた米田の心境としてふさわしいウになる。
- 6 「私」は部活動という場を「自分らしくない場」だととらえているのである。――線③のあとの二文が「このストレス。一人だったらこんなところになくていいのに」となっていることから、「多くの人と関わる場」といった内容の表現が答えになると考えられる。
- 7 直後の一文から考えると、――線④は「高校生にもなって十歳レベルの発言をしている」ということになるのだが、「米田の言葉」の内容を明らかにしたうえで「と問いにあるので、米田の発言に注目しうまくまとめて答えに組み込む必要がある。――線④の直前に「つまり」とあるのでその前の部分に注目すると、米田は「定時制高校の生徒がドラフトにかかるなんて：試合に出たつて九十九パーセント誰の目にも留まらないに決まっている」ような状況であるとわかる。そんな米田が「子どもの頃から、野球選手になるのが夢なんや：ドラフトに引っこかりたい」と言っており、この部分がいわゆる「十歳レベル」ということである。
- 8 「じゃあ、俺がキャッチャーやりますよ」という米田の発言に対して「え、なんで」と反応しており、そのあとに「思わず声に出してしまった。だって米田はエースナンバーじゃないか」と書かれていることから、「私」はそもそも米田以外の誰かにキャッチャーをしてもらいたいと思っていることがわかる。――線⑤は牧谷が米田に念を押しても米田の意志が変わらないことを受けてのものであり、その直後の「私は：米田を見てきた。その米田が勝つところが見たかった」という表現から、「私」があきらめかけていることが読み取れる。
- 9 「部員たちが会議に対してともともと気乗りしていない」という問いの文言から、会議（話し合い）が始まった場面からさがせばいいと見当をつける。

- 10 ⑦は、「個人競技」向きである自分が部内の話し合いで口を出しイラツとしてしまったことを形容した表現である。
- 11 線⑧を含む一文が「家に帰っても：私はケッコウ落ち込んでいたし、めっちゃくちや自己嫌悪だった」となっているので、ここよりも前に書かれている学校での場面においてもすでに自己嫌悪だったと考えられる。「たとえを用いてあらわしている一文」であることに注意してさがそう。